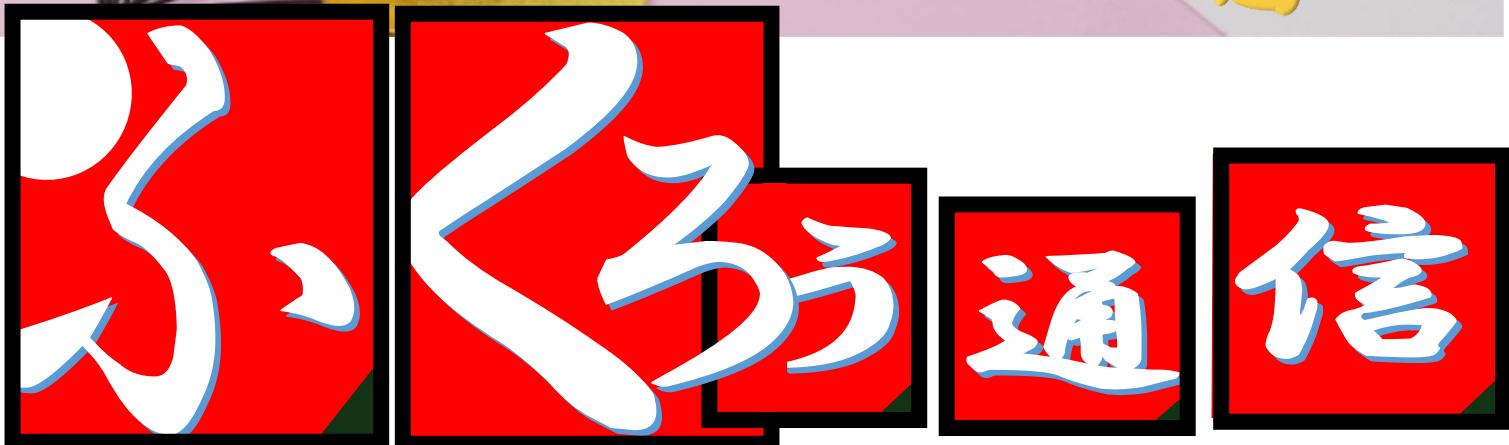


福島労災病院広報誌「ふくろう通信」

迎
春



令和8年1月1日発行
第四拾七号

『新年を迎えて』

福島労災病院 院長 斎藤 清



◇病院理念
心通い合う良質で信頼される医療・看護を実践し、勤労者や地域の皆様の健康を支えます。

◇基本方針
・医療を受ける方の権利を尊重し、受ける方が主役の医療を実践します。
・医療人として常に研鑽し、チーム医療を軸とした高質な医療を安全・安心かつ確実に提供します。
・地域の医療機関等と連携を図り、地域の皆様から信頼される病院づくりに努めます。
・永年にわたる勤労者医療の実績を活かし、働く方の健康維持と早期社会復帰に取り組みます。

- ◎ 地域医療支援病院
- ◎ 病院機能評価認定病院
- ◎ 臨床研修指定病院
- ◎ がん診療連携推進病院



新春を迎え、皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より福島労災病院をご利用いただいている患者さん、ご家族の皆様、ならびに地域の医療機関・登録医の先生方に、心より感謝申し上げます。

当院は、労働者健康安全機構の病院として、労災医療や勤労者医療を担うとともに、地域の中核病院として救急医療や急性期医療、がん診療など幅広い医療を提供してまいりました。昨年も、多くの患者さんが不安や苦痛を抱えながら当院を受診されましたが、職員一同、「安心して治療を受けていただくこと」を何より大切に、日々の診療に取り組んでまいりました。

救急医療においては、昼夜を問わず可能な限りの受け入れを行い、また、がん診療においては、医師、看護師、薬剤師、リハビリスタッフなど多職種が連携し、治療だけでなく、その後の生活も見据えた支援を行っています。こうした医療が円滑に提供できているのは、地域の登録医の先生方との連携によるところが大きく、改めて御礼申し上げます。



現在、当院では、将来にわたり安全で質の高い医療を提供し続けるため、新病院の実現に向けた検討と準備に取り組んでおります。医療環境の変化や地域のニーズを見据え、患者さんにとってより安心で利用しやすい医療体制を整えることを目標に、関係機関と連携しながら、着実に努力を重ねているところです。

また、患者さんにとって「話を聞いてもらえる」「相談しやすい」病院であることも、当院が大切にしている姿勢です。分かりやすい説明や丁寧な対応を心がけるとともに、職員一人ひとりが専門職としての責任と誇りを持ち、温かい心で医療に向き合えるよう、人材育成にも引き継ぎ力を注いでまいります。

本年も、地域の皆様とともに歩む病院として、信頼され、選ばれる福島労災病院であり続けるよう努力してまいります。お気づきの点などがございましたら、どうぞ遠慮なくお声をお寄せください。

結びに、皆様にとりまして本年が健康で穏やかな一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



福島労災病院 院長

齊藤 清





『新春に寄せて』～私と馬の関わり～

福島労災病院 薬剤部長 長嶋一泰

明けましておめでとうございます。

新春を迎え、穏やかな気持ちで新しい年の始まりをお過ごしのことと存じます。

今年は六十年に一度巡ってくる丙午の年です。ふと「私と馬の関わりとは何だろう」と考えてみました。競馬や乗馬の趣味があるわけでもなく、桜肉を口にするのも年に数えるほど。昭和製の古い頭脳を縦動員して、ようやく三つほど思い当たりました。

一つ目は、自身の干支が丙午であること。

二つ目は、赴任後に相双地区をドライブした際に手に入れた、大堀相馬焼の「馬九行久（うまくいく）」の盃。

三つ目は、業務で処方箋を監査していると、思いのほか頻繁に目にする「馬」の付く名字です。

興味が湧き、少し詳しくエゴサーチしてみることにしました。

はじめに「丙午」について調べると、陰陽五行では十干の「丙」は陽の火、十二支の「午」もまた陽の火にあたり、同じ気が重なることで、力強く、時に激しいエネルギーを持つ年とされていく。

次に「馬九行久」は、「うまくいく」と読み、「何事もすべて上手くいく」という語呂合わせ。盃には九頭の馬が左を向いて描かれており、これは「左馬」にあたります。「右に出るものがいない」という意味に通じ、古来より縁起物とされてきました。言霊思想に基づく「良い言葉は良い結果を招く」という考えを重ねると、なかなかに強力な組み合わせの意匠と言えるでしょう。

ちなみに私は左利きの丙午。左馬とも重なり、案外縁起の良い人間なのかもしれません。

最後に、福島県内に見られる「馬」の付く名字を調べてみると、馬上、馬目、門馬、相馬、有馬、馬場といった名前が目につきました。会津地区には馬場、相双地区には門馬・相馬・有馬、いわき地区には馬上・馬目が多く分布しているようです。

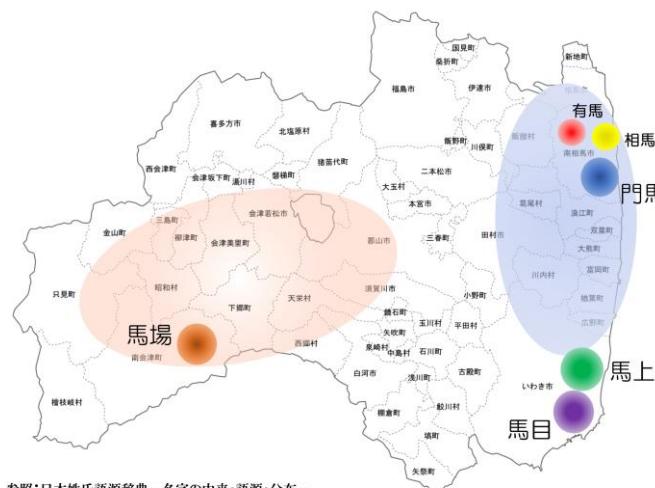
東北地方は古くから馬の産地であり、相馬野馬追に代表される浜通りの祭事、馬刺し文化の根付く会津と、馬と深く関わる暮らしの歴史が名字の分布にも表れているように感じられました。

こうして振り返ると、いわきに赴任してからの私の生活は、意識せぬまま馬と深く関わっていたことに気付かされます。

私は労災病院に平成二年度の庚午に就職し、令和八年度の丙午に定年を迎える予定です。節目の年を、馬に縁の深い福島の地で迎え

られることに、不思議な巡り合わせを感じています。残りの年月も、公私ともにこの土地の文化に親しみながら、穏やかに過ごしていきたいと思います。

本年が皆さんにとって「馬九行久」の一年となりますよう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



参照：日本姓氏語源辞典－名字の由来・語源・分布－

新春

赴任医師紹介

消化器科

たかはた ようすけ

高畠 陽介

略歴：平成25年北里大学卒業

専門：消化器全般

資格：臨床研修指導医

学会：日本炎症性腸疾患学会



赴任にあたって

ヒトコト



患者さん一人ひとりが抱える不安や疑問を少しでも和らげるため、日々丁寧で誠実な説明と、専門用語をできる限り避けた分かりやすい情報提供を心がけています。

治療や検査の内容だけでなく、その目的や今後の見通しについても十分にご理解いただけるよう、時間をかけてお話しすることを大切にしています。

消化器疾患は症状やお悩みが人に相談しにくい、非常にデリケートな問題を含むことも少なくありません。

そのため、患者さんが安心して気持ちを打ち明けられる雰囲気づくりと、プライバシーに配慮した環境整備を重視しています。

「こんなことを聞いても大丈夫だろうか」と迷われるような些細なことでも構いません。気になることや不安に思われる点がありましたら、どうぞ遠慮なくご相談ください。

